

2016年10月9日 礼拝メッセージ

聖書：使徒の働き 3章 18～26節

説教：神に立ち返りなさい

あらすじ

ペテロとヨハネが宮で礼拝するために美しいの門と呼ばれるところを通ろうとしたとき、足のなえた男が癒しを求めてきました。ペテロが、お金は持っていないが、私にあるものを上げましょうと言ってから、「ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と宣言すると、たちまち男の足は強くなり歩き出します。

この出来事のうわさはすぐに周りに広まり、野次馬のように人が集まって来ます。そして、ペテロに力があつたからではないかとか、ペテロの信仰が特別だったからではないかとか、おしゃべりを始めます。

そのような人々を見て、ペテロは事情を語っていきます。「あなたがたはこの男の身に起きたことが、まったく自分とは関係がないかのように思っているかもしれないが、実はそうではない。あなたがたは、数ヶ月前にイエスと呼ばれる男が十字架で死んだことを覚えているはずだ。あのときあなたがたはイエスに何をしたか。十字架につけろと言って叫んで、イエスを殺したのではないか。確かにイエスは十字架で死にました。けれども主イエスは死者の中からよみがえりました。私ペテロはそのことの証人です。信じられないと言うのなら、この男の人を見なさい。私は、『イエス・キリストの御名によって歩きなさい』と言いました。もしイエスが死んだままであるなら、何も起きないはずではないですか。足がいやされたことは、イエスがよみがえったことの証拠ではないですか。」

そこまでが前回のあらすじです。これだけ聞いて「はいそうですか」とはいきません。まだわからないことがあります。そこでペテロは旧約聖書に目を留めながら説明を加えていきます。

1 ユダヤ人の信仰

1) 救い主と復活を信じる

なぜ旧約聖書がここで出て来るのか、不思議に思うかもしれません。このことについて、この春にイスラエルに行かせていただいたときの経験を少しだけお分かちします。エルサレムのすぐそばにはオリブ山があつてその山に登るとエルサレムの町が目の前に拡がって全部見えます。すばらしい光景です。そこから目を下ろして山のふもとの方を見ると、なにやらコンクリートのようなものでできた長方形のものがずらっと並んでいるのが見えました。数百から千くらいあつたかもしれせん。聞くと、それはユダヤ教徒のお墓だということです。日本と同じく先祖代々の墓のようになっていて、家族が亡くなるとそこへ葬る。ただ日本と違うの点が二つある。ひとつは土葬だということ。もう一つは、なきがらを安置する方向が決まっている。必ず足をエルサレムの町に向けて寝かせる。なぜか。メシア、救い主はエルサレムに来ると信じているので、メシアにすぐにお会いできるように、そうするのだそうです。それを聞いて私は教えられました。彼らも旧約聖書を信じている。救い主を待ち望んでいるし、復活をしっかりと信じている。ですからペテロ

は、一つのことだけを除いて人々が信じていたことをそのまま語っただけです。

2) イエスはメシヤ救い主なのか

一つの例外とは何か。イエスと呼ばれる男が実はメシヤである、すなわち救い主である、そのことでした。

これはペテロの周りにいる人たちにとっては、誰も考えたことがない新しい話です。当然、「本当なのか」と疑います。そこでペテロは、人々が子どものときから徹底的に教えられ信じている旧約聖書を持ち出し、二つのことを挙げてイエスこそが救い主であることを証明していきます。一つ目は、キリストは苦しみを受けるということ。二つ目は、キリストは兄弟たちの中から出てくる。この二つのことを語ります。

2 旧約聖書から

1) キリストは苦しみを受ける

まず一つ目は、18節です。「しかし、神は、すべての預言者たちの口を通して、キリストの受難をあらかじめ語っておられたことを、このように実現されました。」

キリストの受難については書かれた箇所としては、たとえば有名なイザヤ書53章4節があります。「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。」

人々は当然このみことばは知っています。けれどもペテロから言われるまで、イザヤ書のみことばがイエスのことを指しているとは思いませんでした。

そんなことがあるのかと思うかもしれませんが。私の失敗談をお話します。これも

イスラエル旅行のことですが、旅行に行く前にある姉妹から「現地の水は飲んではいけません。お腹こわしますよ」と親切に教えていただいております。実際に向こうに行きました。お昼を食べるためにレストランに入りました。そうするとテーブルに水の入ったピッチャーが置いてある。他の人たちはそれをコップに注いでがぶがぶ飲んでいました。それを見ていたら多分大丈夫だろうというような根拠のない安心感が湧いてきて、飲んでしまった。そうしたらその晩に腹をこわしてしまいひどい目に遭いました。あらかじめ言われていても、いざとなると自分のことだと思わない。そのことを失敗しながら学びました。

イスラエルの人たちも、あの旧約聖書を読んではいたけれど、イエスとキリストとは思いつかない。まして自分たちの手で、神から遣わされた方を殺したなど、まったく考えも及ばなかった。

でもここでペテロから聞いた以上考えなければなりません。彼らはイエスが十字架につるされるところを自分の目で見ています。自分の目で見たイエスの姿とイザヤのことば。確かに矛盾はありません。そのようにも見えます。でもまだ疑問がある。救い主はどこから来るはずだったのか。神が天から送ってくださるはずではないのか。でもイエスはどこから来たのか。ナザレからではないか。それが二つ目の問題となります。

2) キリストはあなたがたの中から立てられる (申命記18章15節)

そこでペテロは、申命記18章15節と19節からを引いて22節で言います。「モーセはこう言いました。『神である主は、あなたが

たのために、私のようなひとりの預言者を、あなたがたの兄弟たちの中からお立てになる。この方があなたがたに語ることはみな聞きなさい。その預言者に聞き従わない者はだれでも、民の中から滅ぼし絶やされる。」

イエスが生活していたナザレは当時、「ナザレから何の良いものが出るだろう」と言って笑われるくらい田舎の小さな村でした。救い主は、もったりつばな家柄から出る。あるいは天から送られてくる。人々はそう思い込んでいた。しかしモーセはなんと言ったか。「ひとりの預言者を、あなたがたの兄弟の中からお立てになる。」つまり、救い主は貧しい家、田舎の村、満足な教育も受けていない、だれも注目しない、そんなところから出て来ると言っていた。

あなたがた信じているモーセは、ナザレから出たイエスこそが救い主であると語っていたのではないか。ペテロはそのことに目を向けさせます。

3 キリスト

1) 神に立ち返りなさい

これを聞いていた人たち、だんだんと心穏やかではなくなります。モーセは言いました。「その預言者に聞き従わない者はだれでも、民の中から滅ぼし絶やされる。」もしペテロの言うことが本当ならば、自分たちはキリストに従わず、神が遣わした方を殺した者になります。このままでは、神のさばきを受けて滅ぼし絶やされることになります。どうするか。選択肢は二つです。ペテロの話の聞かなかったことにして無視する。それとも、真正面から受けとめるのか。二つに一つしかありません。

そんな人たちにペテロは言います。19節。

「そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」

ペテロのことばを自分には関係ないと言っていていつかは無視することはできるかもしれません。でもいつまで平安でいられるのでしょうか。心の中から叫ぶ声が聞こえないのでしょうか。自分のしてきたひどいことをなかったかのように無視したとしても、台所のゴミのように悪臭を放っているのです。そのことで魂が苦しみます。その叫び声はあなたの耳には聞こえないと言うのでしょうか。神には聞こえています。だから神は語ります。「神に立ち返りなさい。」

2) 祝福するために

神に立ち返った者を神はどうされるのでしょうか。「なんてひどいことをしたのだ」と言って怒るのか。いいえ。26節。「神は、まずそのしもべを立てて、あなたがたにお遣わしになりました。それは、この方があなたがたを祝福して、ひとりひとりをその邪悪な生活から立ち返らせてくださるためなのです。」

神は私たちがさばくために救い主を遣わしたわけではありません。そうではなくて、私たちが祝福するためだったと言うのです。ならば神に立ち返る者をしかるはずはない。「私はあなたのひとり子であるイエス・キリストを十字架につけて殺したの者です。」そのように告白して神に立ち返る者を喜んで迎えてくださいます。

3) 邪悪な生活から立ち返らせるために (ローマ書5章2, 3節)

最後にこのことばの意味を確認します。

「ひとりひとりを邪悪な生活から立ち返らせてくださる。」

なにしろ神の子を十字架につけたのですから、邪悪な生活をしてきたと言われても反論はできません。そのとおりです。

問題は次です。邪悪な生活から立ち返らせてくださる、とあるけれど、本当なのか。そういう疑問が湧きます。と言うのは、自分の姿が見えるからです。救われても救われる前と同じことを繰り返している。そう思って悲しんでいる人が沢山います。これをどう考えたらよいのか。

安心してください。ローマ人への手紙 5章 2, 3 節にこうある。「私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいますが。そればかりではなく、患難さえも喜んでいますが。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」

簡単に言えばこうです。あなたがたは自分がまだ邪悪な生活をしていると言って悲しんでいるけれど、実はそれが患難と呼ぶものです。患難は悪いこと、役立たず、あつてはいけないもの、と思っていたかもしれない。けれども、実は大切な役割がある。患難は何を生み出すか。変な言い方をしますが、患難は希望を生み出すエネルギーになる。最近エコが大切にされていますが、私たちの人生には無駄というものがない。患難さえも再生エネルギーとして利用できる。聖書はそう言っている。

主に立ち返るために、神があらゆるものを用いて励ましてくださることに感謝します。